

# 平成31年度 事業報告書

大慈幼保連携型認定こども園

## 1. 《基本方針》

- ①子どもを第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる。
- ②職員一人一人が自己研鑽を行い、資質向上に努める。
- ③職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

## 2. 《平成31年度報告》

- ①子どもの発達段階をよく理解し、主体性を育むよう努める。  
→子どもが自ら活動できるよう、検討を重ねた。
- ②異年齢の関りを深める。  
→特に3歳児以上の子どもは、異年齢での活動を深めた。
- ③本園と分園の連携を密に図り、豊かな教育保育が行えるようにする。  
→職員間の連携を密に図り、一緒に教育保育が行えるよう努めた。
- ④特色・サービスの視覚化を進める。
  - ・職員紹介ニュースを発行し、保護者と職員との交流を深めた。
  - ・ホームページ(PC・スマートフォン)の更新を行った。
  - ・地域の施設・学校・関係者に園だよりなどを配布し、園を知っていただくよう努めた。
  - ・湊川神社への避難訓練時、腕章をつけて、地域の方にも知っていただいた。
  - ・園庭開放、子育て広場にも遊びに来ていただいた。
  - ・園庭開放ポスターを病院等に掲示していただいた。
- ⑤資質向上のため職場内、職場外研修を行う。
  - ・キャリアパス要件を満たすよう研修を受講した。
  - ・職員の資質向上のため、職員会議毎に研修・伝達講習を行った。
  - ・教育保育部門合同研修会を行った。  
11月7日、8日、19日、20日  
「子どもの主体性を育む。非認知能力を高めるには」をテーマに行った。
- ⑥人材確保・定着に努める。(ICTを導入し、効率化を図った)  
→保育書類をiPadで作成し、効率化に向けて取り組んだ。
- ⑦特別な配慮・支援の必要な子どもへの理解を深め、多角的にアプローチをする。
  - ・すこやか対象児だけでなく、個別に配慮の必要な子どもの対応も一人一人行った。
  - ・虐待の恐れのある子どもについては、区・子ども家庭センターと密に連携を取り、対応した。
- ⑧子育てサロンを通して、地域の子育て支援を深める。  
→子育てサロンに新たに参加していただきやすいよう工夫していきたい。
- ⑨リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。  
→教育保育部門全体のリスクマネジメントも行い、想定内を増やすよう努めた。
- ⑩1号に移行する大慈あい小規模保育園の園児(2歳児)を早めに受け入れ、慣れるようにする。  
→1月以降できる限り、本園で保育を行い、子どもが戸惑わないように配慮した。

### 3. 《行事》

#### 年間行事

月	行事名
4月	入園式
5月	春の遠足（5歳児）運動会
6月	お楽しみ会 歯科教育指導
7月	全園児プール開き 七夕祭り ワークキャンプ受け入れ
8月	地藏盆
9月	お泊り保育（5歳児）お楽しみ会
10月	秋の遠足（全園児）
11月	作品展 参観ウィーク 津波避難訓練
12月	音楽day クリスマス会 おもちつき
1月	よいこの集い 六甲山スキー遠足（5歳児） お楽しみ会
2月	発表会
3月	お別れ遠足（中止）お別れ会 卒園式 ピドスコープ撮影

#### 月間行事（月1回）

お誕生日会 子育て支援事業 防災訓練 防犯訓練

#### その他

- ・盲学校幼稚園部児童との交流 週1回
- ・事故対応訓練（SIDS・プール事故・アレルギー対応）
- ・消火器 火災報知器の点検 年2回
- ・消防署による消防訓練 年1回
- ・警察署による交通安全教室・防犯訓練 年1回
- ・消防署への避難訓練報告 年1回

### 4. 《保健衛生計画》

項目	頻度等
園児・職員定期内科健康診断	園児4月、11月 年2回 職員年1回
園児歯科健診	7月・11月 年2回
園児耳鼻科健診	6月 年1回
園児眼科健診	5月・2月 年2回
園児発育測定	月1回
園児検尿	兵庫県予防医学協会により年1回
調理員・保育教諭全員検便	(株)アリケンにより月1回以上
調理室の消毒	サニックスにより月1回
グリストラップの清掃	乾商事により年4回
エアコン・換気扇の清掃	乾商事により年1回

5. 《平成31年度在籍児一覧表》( )は分園

2・3号認定こども

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
4月	9 (8)	25 (9)	25 (9)	24 (9)	23 (8)	25 (9)	131 (52)	114%
5月	9 (8)	26 (10)	25 (9)	25 (9)	23 (9)	25 (9)	133 (54)	117%
6月	9 (8)	26 (10)	25 (9)	25 (9)	23 (9)	25 (9)	133 (54)	117%
7月	9 (8)	26 (10)	25 (9)	25 (8)	23 (9)	25 (9)	133 (53)	116%
8月	9 (7)	26 (10)	25 (9)	25 (8)	23 (9)	25 (9)	133 (52)	116%
9月	9 (8)	26 (10)	25 (9)	25 (9)	23 (9)	25 (9)	133 (54)	117%
10月	9 (8)	26 (10)	25 (9)	25 (9)	23 (9)	25 (9)	133 (54)	117%
11月	9 (8)	26 (10)	25 (9)	25 (9)	23 (9)	25 (9)	133 (54)	117%
12月	9 (8)	26 (10)	25 (9)	25 (9)	23 (9)	25 (9)	133 (54)	117%
1月	9 (8)	26 (10)	25 (9)	25 (9)	23 (9)	25 (9)	133 (54)	117%
2月	9 (8)	26 (10)	25 (9)	25 (9)	23 (9)	25 (9)	133 (54)	117%
3月	9 (8)	26 (10)	24 (9)	25 (9)	23 (9)	25 (9)	132 (54)	116%
合計	108 (95)	311 (119)	299 (108)	299 (106)	276 (107)	300 (108)	1593 (643)	116%

1号認定こども

	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
4月	5	6	5	16	107%
5月	5	6	5	16	107%
6月	5	6	5	16	107%
7月	5	6	5	16	107%
8月	4	6	5	15	100%
9月	4	6	5	15	100%
10月	4	6	5	15	100%
11月	4	6	5	15	100%
12月	4	6	5	15	100%
1月	4	6	5	15	100%
2月	4	6	5	15	100%
3月	4	6	5	15	100%
合計	52	72	60	184	102%

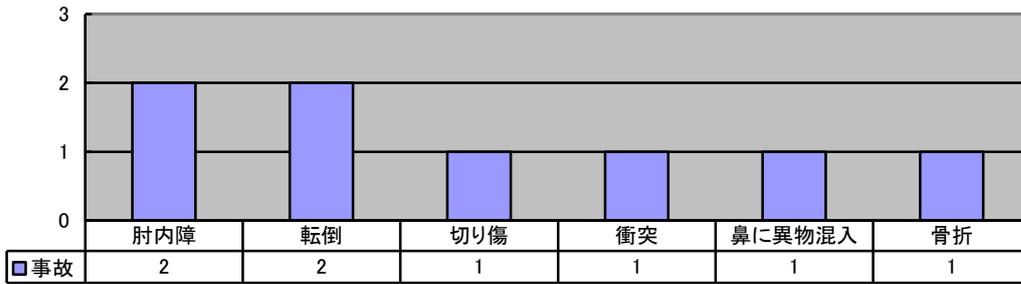
6. 《リスクマネジメント報告》 本園

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

平成31年度 事故 8件

平成30年度 事故 8件

① 事故発生内容



② まとめ

毎年、乳児の肘内障の事故が数件起きている。小さな子どもは起こりやすい事故であることを職員全員でもう一度確認をし、関わり方には十分に気をつけていく。

7. <<リスクマネジメント報告>> とも分園

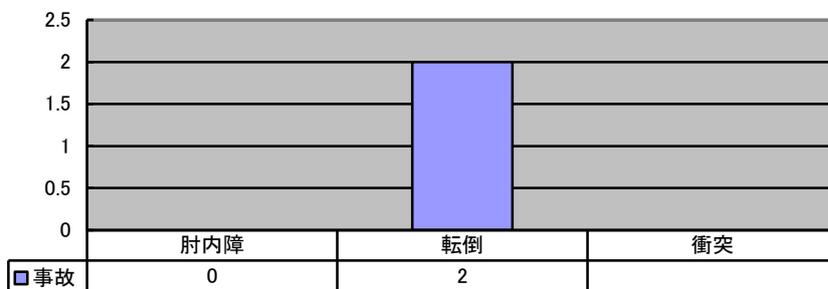
※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

平成31年度 事故 2件

平成30年度 事故 2件

① 事故発生内容

- 園庭で友だちとぶつかり転倒、腕を打撲した。
- ・園外で転倒し前歯2本が抜ける。1本は見つかり入れ直したがもう1本は見つからず。永久歯が生えてくるのを待つ。



② まとめ

転倒時、手をついて身を守ることが出来ない子どもが増えてきている。日々の活動の中で体幹を鍛えたり、手をつくことを取り入れ、身を守る術を伝えていきたい。

8. <<苦情・相談結果報告>>

苦情の定義→園長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数・・・8件 (本園 4件 分園4件)

平成31年度				平成30年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	11件	8件	3件		7件	3件	4件

## ○まとめ

保護者とのコミュニケーション不足による苦情が数件あった。日頃から保護者との何気ない会話を大切にし、信頼関係を深めていくことの大切さを感じた。

保護者への伝達ミスによる苦情が数件あった。誰がどのように伝達をするのか等の確認を行い、確実に、正確に伝言をしていけるようにする。

精神的に不安定な保護者には対応の担当を決めて関わった。保護者の気持ちに寄り添いながら、無理な要求をしてきた時は断った。

## 9. 《総括》

時代が急速に変化している今、どんな時代が来ようとも、子どもが逞しく自分の力で生きていけるようにしなければならないと感じた。人間の根っこを培うこの時期に何をしたらいいのか？を探った結果、非認知能力を高めることに至った。

非認知能力を高めるために、保育者は何をするべきなのか等、研修や話し合いを重ねてきた。子どもの好奇心や興味から生まれる取り組みが大切だと理解した。

以前から子どもの主体性を大切にする保育を進めてきたが、今まで以上に子どもをよく観察し、子どもの変化や気づきを敏感にキャッチするよう心掛けた。

異年齢の関りを深めたり、自分で調べたり作ったりと子ども自ら取り組むようになってきている。

平成31年度の夏から始めた保育ではあるが、日常や行事の時の子どもの表情がより一層はつらつとしてきたように感じている。今後も子どもをよく観察し、子どもの興味や取り組みが広がるよう努めていきたい。そして、保護者には情報発信や会話を通して、理解していただけるようにしていきたい。保護者支援・家庭支援も引き続き力を入れて取り組んでいきたいと思う。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、年度末の行事や日常の保育が特別なもの変わった。人の命を最優先に保育を進めることになった。

今後どのような事態が起こるかわからないが、人の命を最優先し、最善の方法を考え保育にあたりたいと思う。